

事案名	別府湾周辺（大分市）の事案（大分県44-1-1）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「各航空廠引渡目録」2/2〔8〕 ・「浜名湖に投棄された軍用ガスの処分について（通知）」1949年12月28日〔14〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔21〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』」のフォローアップ調査について」平成15年12月〔A1〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A2〕 ・『大分の空襲』〔A3〕 ・『大分市史 下』〔A4〕 ・『日本海軍航空史（2）軍備編』〔A5〕 ・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務 報告書』〔A6〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦後、第12海軍航空廠大分に、60kg一号爆弾2,351発を保有していたと記載されている〔8〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和45年6月19日に大分県大分市から不明爆弾1発が発見され、コンクリートで密封され海中投棄されたと記載されている〔21〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和21年8月頃までに、米軍の監督指示により、イペリット型薬缶2,351個（内容量計39,967kg）が海洋投棄された〔14〕。
新たな情報	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2復員局（旧海軍省）が終戦後連合軍に報告した資料によると、第12海軍航空廠大分工場は、イペリット爆弾装填用缶2,351個、ガスの量39.967トンを保有していたとの記載がある（昭和29年12月25日）〔A1〕。 ・終戦時、第12海軍航空廠春日浦工場には、6番1号陸用爆弾3,811発が存在していたが、これらは昭和20年12月16日に連合軍によって処理済と捺印されている〔A2〕。 <p>その他情報</p> <p>（1）毒ガス弾等の集積及び別府湾への投棄に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元大分航空廠補給課長からの聞き取り調査の結果（昭和29年

	<p>4月21日)、「前任者からの申し継ぎでは終戦と同時に軍より『31号爆弾を速やかに海中に投棄すべし』の命令があり、約400発程度投棄した事実があり、その投棄箇所は大分港より略高崎山を結ぶ線上の白木沖に投棄した」、「その後、残りの31号爆弾(毒ガス弾)については、春日浦に集積され厳重監視をしていた。昭和21年2月に至りCIC経済化学局スケリー中尉の責任指導の下に民間運送会社によって別府湾に投棄された」との情報得られている〔A1〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴取調査には、「終戦後県下各地(天神山猪野トンネル等)に疎開させてあった爆弾を大分市春日浦に集積に集積(その量約6~7,000トン)」、その後、CICスケリー中尉、知事、その他関係者で打合せを行い、約4ヶ月の間に民間運送会社により別府湾に投棄されたとの記載がある〔A1〕。 <p>(2) 別府湾周辺における被災に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別府湾周辺におけるイペリット負傷者リストによると負傷者総数は19人で、昭和26年から29年にかけて負傷しているが(うち漁業者5名、古物商4名、掃海労務者5名等)、被災した場所や経緯等については記載されていない〔A1〕。 <p>(3) 大分市内における第12海軍航空廠に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市内には、第12海軍航空廠の本廠・高城発動機工場・春日浦分工場等が存在していたと記されている〔A3〕。また、高城発動機工場に近隣した谷には、弾薬収納壕が存在していたと記されている〔A4〕。 ・第12海軍航空廠は大分県大分に存在し、同航空廠大分補給工場は大分市に存在していたと記されている〔A5〕。 <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔A6〕。
--	--

事案名	別府湾周辺（九重町）の事案（大分県44-1-2）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元海軍大佐の証言）〔1〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料1の2〔2〕 ・『朝日新聞』昭和47年5月28日〔7〕 ・『山陽新聞』昭和47年5月25日〔9〕 ・『朝日新聞』昭和47年5月24日〔10〕 ・『毎日新聞』昭和47年5月24日〔11〕 ・『朝日新聞』昭和47年5月24日大阪夕刊〔12〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔16〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年12月4日〔A1〕 ・『山陽新聞』昭和47年5月25日〔A2〕 ・「2万5千分の1地形図 豊後中村」〔A3〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A4〕 ・『国鉄JR 鉄道廃線カタログ』1996年10月14日〔A5〕 ・『玖珠郡史』〔A6〕 ・県・市町村の変遷(大分県庁ホームページ)〔A7〕 (http://www.pref.oita.jp/10800/nenkan/nenkan_h12/data/nenkan002.xls)
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元第12海軍航空廠関係者によれば、終戦時に、国鉄久大線旧宮原トンネルには、第12海軍航空廠大分工場のイペリット鉄ガメ1,800個(90,000kg)が保有されていた〔1〕〔2〕。 ・終戦時に海軍は、イペリット爆弾を大分県玖珠郡のトンネル内に600発を保有していた〔7〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦時に、旧海軍大分航空廠から「米軍の進駐で毒ガス弾を保持していることがわかると困るから」と投棄を要請された民間運送会社が、貯蔵庫代わりとしていた国鉄宮原線の宝泉寺と町田駅間のトンネルから毒ガス弾約4,000発と爆弾類を輸送し、大分市西大分の大分港沖合い6キロ以上の海域に投棄した〔9〕〔10〕〔11〕〔12〕。 ・証言及び「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」によれば、進駐軍の命により、別府湾沖豊後水道にイペリット鉄ガメ1,800個(90,000kg)が投棄された〔1〕〔16〕。

<p>新たな情報</p>	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元大分航空廠補給課長（海軍少佐）からの聞き取り調査の結果（昭和29年4月21日）、戦時中、全国3ヶ所に毒ガス弾を分散していたが、そのうちの1ヶ所が九州の宝泉寺というところであった、との情報が得られている〔A1〕。 <p>その他情報</p> <p>(1) 毒ガス弾等の移送に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元大分航空廠補給課長（海軍少佐）からの聞き取り調査の結果（昭和29年4月21日）、「当時全国に3箇所を亘り毒ガス弾を分散していた。その1箇所として九州であり、それが久大線沿線の宝泉寺と云う処に置いてあった」、「この毒ガス弾が大分に搬入されたのは、終戦前の昭和20年6月に軍の命令により久大線宝泉寺から大分航空廠に移送されて来た。その数は、約は3,000発より4,000発の程度だった」、その後31号爆弾については海中に投棄された、との情報が得られている〔A1〕。 ・新聞報道には、元運送会社社員から得られた情報として、当時弾薬類は「宝泉寺 - 町田駅間のトンネルを貯蔵庫代わりとして置いてあったが、これを1トン半トラックで延べ80台分輸送した。この中に毒ガス弾約4,000個と爆弾類があったと推定される」と記されている〔A2〕。 <p>(2) 旧宮原線のトンネルに係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧宮原線の恵良 - 宝泉寺間に4つのトンネルが存在していたことが地図に示されている〔A3〕。うち、2ヶ所のトンネルは現在道路トンネルや民間の倉庫として利用され、残る2ヶ所のトンネルは、未利用である〔A4〕。 ・旧宮原線の宝泉寺 - 麻生釣間には、5つのトンネルが存在していたことが地図から確認することができる〔A3〕。このうち4ヶ所のトンネルは、現在道路のトンネルとして利用されているが、1ヶ所のトンネルの利用状況は不明である〔A4〕。 <p>(3) 旧国鉄宮原線（旧国鉄久大線）に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧宮原線（昭和12年に開通し、昭和59年廃止）は、大分県の恵良から熊本県の肥後小国に至る路線である。うち、恵良から宝泉寺までは昭和12年に開業し、昭和18年にはレールの供出命令により運休したので鉄道として機能していなかった。宝泉寺より先の線が昭和29年に開通するまでは、宝泉寺が終点であった〔A5〕。 ・旧宮原線は、昭和12年6月に宝泉寺まで開通し、続いて麻生釣まで延長したが、昭和18年9月にレールを供出したた
--------------	--

	<p>め不通となった。麻生釣は、恵良から宝泉寺の先に位置する〔A6〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元住民によると、戦時中、鉄道は宝泉寺の先の麻生釣まで建設されており、トンネルには軍の物資が保管されていたとの証言がある〔A4〕。 <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12海軍航空廠の引渡目録(兵器目録)には、第12海軍航空廠の関連施設として旧南山田村(現九重町)に存在していた隧道の位置が示されており、爆弾等の引き渡しに関する情報が記載されている(毒ガス弾等に係る情報は記載されていない)〔A4〕。 ・玖珠郡は九重町と玖珠町からなっている。玖珠郡九重町は、昭和30年2月1日に東飯田村・野上町・飯田村・南山田村が合併して誕生した〔A7〕。また、玖珠郡玖珠町は、昭和30年3月1日に森町、玖珠町、北山田村、八幡村が合併して誕生した〔A7〕。
--	---

事案名	別府湾周辺（庄内町）の事案（大分県44-1-3）
フォローアップ調査資料	・『朝日新聞』昭和47年5月28日〔7〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年12月4日〔A1〕 ・『朝日新聞』昭和47年5月28日〔A2〕 ・『庄内町誌』〔A3〕 ・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務報告書』〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和47年の新聞報道には、『大分郡湯布院町近くに4,400発のイペリット爆弾を貯蔵していた』との旧軍関係者の証言が記載されている〔7〕。なお、湯布院町は昭和30年に由布院町と湯平町の合併により誕生したもので〔39〕、終戦時には存在していない。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年8月23日ごろに、海軍少尉の命令で、第12海軍航空廠の一等兵曹の兵装係員が同僚6人と計5,000発の爆弾を別府湾に投棄した〔7〕。
新たな情報	<p>その他情報</p> <p>(1) 毒ガス弾等の移送及び移送中の被災に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦時、旧軍の依頼で爆弾等の移送に関与した運送会社社員からの聞き取り調査の結果（昭和29年4月19日）、「終戦当時西庄内村猪野トンネル内に、箱詰めした種々の爆弾が蓄積してあった事を西庄内村民は承知している。これは、終戦と同時に内村駅より貨車扱いで大分方面へ移送した模様、この折西庄内民間運送会社員は、集荷中、毒ガスによると推定される火傷を受けた」との情報が得られている〔A1〕。 ・新聞報道には、元第12海軍航空廠関係者から得られた情報として、旧軍による毒ガス弾等の移送について、「湯布院町近くの4,400発は他の上官が指揮をした。その上官は操作を誤り、もれた毒ガスで腹部がただれる事故を起こした」（その後、別府湾に投棄）と記されている〔A2〕。 ・元大分航空廠補給課長海軍少佐からの聞き取り調査の結果（昭和29年4月21日）、「終戦後、県下各地（天神山猪野トンネル等）に疎開させてあった爆弾を大分市春日浦に集積」（その後、別府湾大分港沖に投棄）したとの情報が得られている〔A1〕。

(2) 猪野トンネルに係る情報

- ・猪野トンネルは昭和10年に着工し、昭和12年に竣工した。このトンネルは、匡救事業第3期工事として発起人が私財を投じて掘ったとの情報がある〔A3〕。

(3) その他

- ・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔A4〕。

事案名	別府湾周辺（耶馬溪）の事案（大分県44-1-4）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「毒瓦斯及其ノ充填兵器処理ニ関スル件」昭和20年9月〔3〕 ・「日本海軍ニ於ケル化兵戦関係概況」（日付なし）〔4〕 ・Reports on scientific Intelligence Survey in Japan. September & October 1945. Vol. IV Chemical Warfare 11-NOV-45〔5〕 ・『相模海軍工廠』1984年〔6〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「海軍勤務回想（三式弾、風船爆弾、広島原爆調査、化学兵器の研究）」〔A1〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A2〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年9月9日に、大分県耶馬溪には、60kgイペリット爆弾約5,000発が保有されていた〔3〕〔4〕〔5〕〔6〕。
新たな情報	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元海軍大佐（化学兵器等の研究生産担当主務者）は、戦時中に3号特薬（糜爛剤）を約2万個分準備し、その半数を神奈川県瀬谷火薬庫と大分県耶馬溪の洞窟内にそれぞれ貯蔵したと記している〔A1〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耶馬溪には鉄道が施設されていた。また、耶馬溪鉄道の終点（守実温泉）から先には、金山があるのでその運搬に鉱山鉄道が導入されたが、現地の案内版によると、昭和16年から撤去を開始し昭和18年に撤去終了し廃坑と記されている〔A2〕。